

ギガ スタディーエックス
GIGA StuDX 推進チームの今後の予定等

令和 3 年 5 月 1 2 日



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

GIGA StuDX推進チームの今後の活動について（令和3年5月現在）

- GIGAスクール構想における1人1台端末活用に関して、都道府県及び指定都市の担当者連絡会議を5月に開催（本日）
- 夏までに調整のついた全ての都道府県等において、域内の市区町村の担当者を対象としたオンライン相談会を実施 ※その後、地域別ブロックミーティング（仮称）を行うことを検討
- 特設ホームページ（「StuDX Style」）の事例について、導入段階・活用シーン別に整理。別途、教科等でのICT活用事例を拡充
※GIGAスクール構想の下で整備された1人1台端末の積極的な利活用等について（令和3年3月12日付け初等中等教育局長通知）の周知
- 「GIGA StuDXメールマガジン」を配信
- 問合せ・相談窓口

希望する全ての都道府県等におけるオンライン相談会について

- **夏までに調整のついた全ての都道府県等において、域内の市区町村の担当者を対象としたオンライン相談会を実施** ※その後、地域別ブロックミーティング（仮称）を行うことを検討

- **全国を7地域にわけ、チームメンバーで各地域を担当（各都道府県・指定都市を担当）**

担当地域	都道府県	指定都市
①北海道ブロック	北海道	札幌市
②東北ブロック	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島	仙台市
③関東ブロック	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川	さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市
④中部ブロック	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知	新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市
⑤近畿ブロック	三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山	京都市、大阪市、堺市、神戸市
⑥中国・四国ブロック	鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知	岡山市、広島市
⑦九州・沖縄	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄	北九州市、福岡市、熊本市

- **実施形態、日程及び内容は個別に対応**

- ・ 文部科学省主催、文部科学省・都道府県の共催、都道府県等主催に文部科学省として参加等、個別に対応（新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防の観点から同時双方向オンラインでの実施を想定）
- ・ 令和3年度から本格的に1人1台端末環境での実践を行う自治体が大半であることを踏まえ、日程・内容は、自治体の実情や要望等にあわせて対応

（会議終了後、都道府県・指定都市を対象に、希望時期、課題や要望等のアンケートを実施。その後、担当チームメンバーによる連絡・調整）

スタディーエックス スタイル
「StuDX Style」等について

- 特設ホームページ（「StuDX Style」）の事例について、導入段階・活用シーン別に整理。
- 別途、教科等でのICT活用事例の拡充予定



StuDX Styleへのアクセス先：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_01097.html



すぐに役立つ活用事例や対応事例

自治体名	埼玉県	熊本県	相模原市
内容	<p>小・中・高の各教科等ごとの例示、指導案・写真・授業の流れの例示</p>	<p>学校や研修を主導する教員に向けて、研修プログラムの組み立て方や事例などを紹介</p>	<p>GIGAの準備、小・中の教科別実践例、情報活用能力、校務の情報化、アカウントデータの引継ぎ、年度末のアーカイブ</p>
導入OS	3社	3社	Google社
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等で豊富な実践例が紹介されている。 ・指導案が略案形式で見やすいため、ポイントが明確化されすぐにでも活用できる。 ・授業を行う上で必要なアプリケーションが3OS毎に明示してあるため、すべての自治体で活用が可能である。 ・写真資料も多く、視覚的にも理解しやすい工夫がなされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修用ガイドという形で冊子形式にまとめており見やすい。 ・プレゼンテーション資料やワークシートなどの豊富な実践例も収録されており活用しやすい。 ・研修プログラムの組み立て方も紹介されており、研修計画を立てる際に役立つ。 ・研修主任がファシリテーターとして推進していくことをねらいとして作られており、今後の授業づくりの事例としても参考になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これから取組を進める自治体から、ある程度進んだ自治体まで多くの自治体の参考になる。 ・小中の教科ごとにポイントを押さえた授業づくりの視点で資料がまとめられている。 ・その他の冊子も充実している。 ・年度末の作業にも触れられている。
URL	<p>https://www.center.spec.ed.jp/ict活用ガイド</p>	<p>https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/life/76853_87129_misc.pdf</p>	<p>http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kyouikunouhoukoua_top.html</p>

GIGAスクール構想の下で整備された1人1台端末の積極的な利活用等について（通知）

【概要】

学校現場において、全ての関係者が安心・安全に、1人1台端末の本格的な活用を積極的に進められるよう、

- 学校設置者等において**留意すべき事項**を網羅的にまとめて周知徹底を図る。その上で、問題の発生を恐れて安易に使用を制限するのではなく、むしろ多くの場合には積極的に利活用する中で課題解決を図ることが重要との認識を示す。
- 学校設置者等が、新しいICT環境を本格的に運用するに当たり確認しておくべき事項について、教育関係者や学識有識者、医師など専門家の助言等を得ながら、先行自治体の取組等も分析した「**本格運用時チェックリスト**」とともに、児童生徒の健康面の配慮や、保護者等との関係構築についても整理して提供。

・「ICTの活用に当たっての児童生徒の目の健康などに関する配慮事項」

・「保護者等との間で事前に確認・共有しておくことが望ましい主なポイント」

1. 端末の整備・活用

2. 個人情報保護とクラウド活用

3. ICTの積極的な利活用

4. デジタル教科書・教材の活用等

5. 教員のICT活用指導力の向上

6. 情報モラル教育等の充実

7. ICTの活用に当たっての児童生徒の健康への配慮等

8. 保護者や地域等に対する理解促進

9. ICTの円滑な活用に向けた改善の継続

【通知】GIGAスクール構想の下で整備された1人1台端末の積極的な利活用等について（令和3年3月12日付け）

https://www.mext.go.jp/content/20210312-mxt_jogai01-000011649_002.pdf

【解説動画】

<https://youtu.be/uoIvPpuENHk>

通知(抜粋)「整備された1人1台端末の積極的な利活用等の促進」

1. 端末の整備・活用について

さらに、非常時における児童生徒の学びの保障の観点からも、端末を持ち帰り、自宅等での学習においてもICTを活用することは有効であることから、各学校設置者等においては、関係者と緊密に連携して、児童生徒への適切な利活用の指導やルール設定など準備を行うとともに、学校で整備されたものを含む家庭での端末の利用に関するルール作りを促進することや丁寧な説明により保護者や地域の十分な理解を得られるよう努めることなど、端末の持ち帰りを安全・安心に行える環境づくりに取り組むこと。その際、経済的な理由等により家庭に通信環境が整っていない場合には、令和2年度補正予算に計上している「家庭学習のための通信機器整備支援」を積極的に活用すること。また、端末の持ち帰りにより様々な場面でICTを活用した学習ができるよう、公民館、図書館等の社会教育施設や放課後子供教室等の地域学校協働活動、児童福祉施設、児童相談所等の社会福祉施設や放課後児童クラブなど、学校や家庭以外の様々な場所や場面での活用も踏まえて学習支援を検討すること。

(A) 管理・運用の基本

- | | |
|--|--------------------------|
| ① 端末の管理台帳を作成し、学校設置者や学校と担当事業者で共有しているか
(端末管理番号、シリアル番号、端末貼付ラベル番号、児童生徒名などの対応表等) | <input type="checkbox"/> |
| ② 端末やアカウント(ID)の管理・運用の手順と役割分担を明文化しているか
(卒入学、進級、転出入、教職員の異動などに伴うアカウントやデータの取扱い等) | <input type="checkbox"/> |
| <hr/> | |
| ⑦ 端末等を家庭に持ち帰るときのルールを明確に作成し、教職員・保護者・児童生徒に共有されているか
(充電の扱い、使用時間、保護者への確認書、アプリのインストール・アンインストールをしないこと等) | <input type="checkbox"/> |
| ⑧ 端末等を家庭に持ち帰るとき、通信環境が整っていない家庭に対する具体的な対策を講じているか
(ルータの貸与、家庭でのWi-Fi利用に関する支援等) | <input type="checkbox"/> |

3. ICTの積極的な利活用について

文部科学省では、令和2年3月に、「学習者用コンピュータ」及び「校内LAN」整備に関する仕様書を作成する際の参考となるモデル例を「標準仕様書」として示すとともに、同仕様書には表計算ソフトやカメラなど各学校において活用することが有効と一般的に考えられる学習用ツールを示し、これらを使用できる基本モデルを地方自治体に紹介しているところである。

学習者用端末の標準仕様

● Microsoft Windows

- OS : Microsoft Windows 10 Pro
- CPU: Intel Celeron 同等以上
2016年8月以降に製品化されたもの
- ストレージ:64GB以上
- メモリ:4GB以上
- 画面 : 9~14インチ

● 3OS共通仕様

- 無線 IEEE 802.11a/b/g/n/ac以上
- LTE通信対応も可
- Bluetooth接続でないハードウェアキーボード
- 音声接続端子 : マイク・ヘッドフォン端子

● Google Chrome OS

- OS : Google Chrome OS
- CPU: Intel Celeron 同等以上
2016年8月以降に製品化されたもの
- ストレージ:32GB以上
- メモリ:4GB以上
- 画面 : 9~14インチ

- 外部接続端子 : 1つ以上
- バッテリ : 8時間以上
- 重量 : 1.5kg未満
- タッチパネル対応
- インカメラ/アウトカメラ

● iPadOS

- OS : iPadOS
- ストレージ:32GB以上
- 画面 : 10.2~12.9インチ

● 保証

- 原則1年
- センドバック方式(2週間程度で返却)
- 端末不調時の予備を常備

あくまでモデルであり、各自治体が各学校での活用を想定して仕様書を作成

GIGAスクール構想の実現に向けた1人1台端末整備 基本モデル例

概要

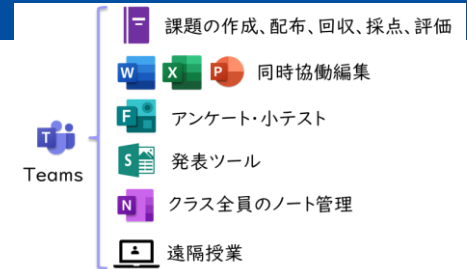
「GIGAスクール構想の実現」に向けた児童生徒1人1台端末の整備事業において、高速大容量の通信ネットワークを前提とした、端末1台あたり4.5万円の補助金を交付します。本資料では、現在教育用に無償で提供されている学習用ツールのライセンスを利用しながら4.5万円で端末を整備するモデル例を提示します。

モデル例1. Windows OS端末 × 教育機関向けOffice 365 ライセンス(無償)



Windows端末
(キーボード付)

Word、Excel、PowerPointといったオフィス機能や Forms（アンケート・小テスト機能）や Sway といった発表ツールがブラウザ上で利用可能です。さらに Teams（右図）を使えば、クラスごとに課題を配布・回収・採点したり、Word、Excel、PowerPointなどのファイルを同時に協働編集が行えます。併せて遠隔授業のためのWeb会議、OneNoteでクラス全員のノートの管理も行え、これらは全て無償で利用が可能です。また、既にご利用の周辺機器やプリンタへの接続も円滑に行えたり、Scratchをはじめ、多くのプログラミング教材（アプリケーション）をローカルディスクにインストールすることができます。Office 365 については、Chromebook、iPadでも利用可能です。



モデル例2. Chrome OS端末 × G Suite for Education ライセンス(無償)



Chromebook
(キーボード付)

G Suite for Education



Chromebook は世界中で3,000万人以上が利用している、教師と生徒が利用するために設計されたシンプルかつ丈夫で軽い端末です。Chromebook で利用できる G Suite for Education は、全てのアプリが無償かつ100%クラウドベースで動くアプリで、時間・場所を問わず共同編集ができるドキュメント（ワープロ）、スプレッドシート（表計算）、スライド（プレゼンテーション）や、自動採点が可能な小テスト作成アプリのフォーム等があります。また、無償の授業支援ツール「Google Classroom」を利用することで、課題の配布・フィードバック・採点・返却・集計を一元管理することができます。

モデル例3. iPadOS端末 × Apple社が提供する無償の教育用App (無償)



iPad第7世代
+キーボード



Keynote(プレゼンテーション)、Numbers(表計算)、Pages(ワープロ)といったオフィス機能を持ったアプリやiMovie、GarageBand&Clipsといった動画・音楽編集アプリ、Swift Playgrounds(プログラミング教材)やFaceTime(ビデオ会議)などが無償で提供されており、端末内のローカルでも利用可能です。さらに、教育向けに無償で提供されている協働学習ツール「クラスルーム(右図)」を利用すると、教員用端末から一覧で学習者用端末の状態を確認したり、画面をコントロールできます。



※上記3 OSが提供するもの以外にも教育利用可能なクラウドサービスは存在するため、選択肢の1つとして検討すること。

3. ICTの積極的な利活用について

一方で現在、一部の地方自治体等においては関係者に適切な理由などについての十分な説明がなされないまま上記のような学習用ツールを一部使用できないよう制限するといった事例が発生しているとの指摘がある。このことについて、文部科学省では、例えば、一部の地方自治体では、ネットワークの環境整備が整うまでの間、使用を制限する可能性があることなどを把握している。また、特に義務教育段階の学校では学齢期の児童生徒が学んでおり、当該学校や地域の実情等も異なることから、児童生徒の発達段階や情報活用リテラシーの習熟度合に応じた対応・準備が必要となる場合や、保護者等の十分な理解を得る必要がある場合などには、情報モラル教育を含めた正しい利用方法等の指導を行って安心・安全に利用できる情報活用能力を身に付けたり、保護者をはじめとする関係者の理解を得たりする間、学校設置者や学校の判断の下、例えば、能力や年齢等に応じて、一時的に利用を制限するような場合も想定され得る。

しかしながら、GIGAスクール構想の趣旨を踏まえれば、こうした制限は安易に行うものではなく、真に必要な場合にのみ行うべきであって、むしろ、多くの課題については、1人1台端末を積極的に利活用する中で解決を図ることこそが重要と考えられる。

以上も踏まえ、地方自治体など学校設置者等におかれては、適切な理由を説明しないままに端末利用を制限するのではなく、課題等がある場合には、学校現場をはじめとする関係者との緊密な調整・協議を行ったり、保護者の理解等を得る努力を丁寧に行ったりした上で、児童生徒の発達段階や実情を踏まえながら、学校におけるICT環境を最大限積極的に活用していくよう留意すること。

GIGA StuDXメールマガジンの創刊・配信について

○ 目的

GIGAスクール構想推進に係る情報や、文部科学省から周知したい情報等について、いち早く対象者に周知し、円滑な情報提供。

○ 主な内容

- (1) 文科省からのお知らせ
・通知 ・HP更新情報 等
- (2) 担当者コラム（各地のオンライン相談会の概要）
- (3) その他

○ 配信予定

不定期（月に1回程度）
第1回：5月中予定

○ 対象

学校等（教師、保護者含む）、学校設置者等

○ 登録ページ（随時登録）

<https://www.mext.go.jp/magazine/>

※「GIGAスクール構想に係るICT利活用担当部署の登録について（依頼）」において、御回答いただいた都道府県及び市町村（指定都市含む。）宛に、会議終了後、登録の許諾メールを送付。登録の拒否や登録先の変更をされる場合は、メールに記載されているURLに回答。

文部科学省初等中等教育局GIGA StuDX推進チーム

[E-mail] **gigastudx@mext.go.jp**

[TEL] **03-6734-4039**

03-6734-3135